

日本材料学会講演論文タイプ A 原稿の見本

東都大学

○吉田太郎

東都大学[院]

材料あゆみ

A Sample of Manuscript of Type A Paper

Taro YOSHIDA and Ayumi ZAIRYOU

A manuscript should be prepared with a laser printer or equivalent output with higher quality than a 24 dot-printer. You must submit A4 sheets with a top margin of 25mm, left and right margins of 20mm, and a bottom margin of 22mm. The title and the name(s) of the author(s) should be printed on the first page in both Japanese and English, followed by the abstract of 200-300 words, giving a brief account of the most relevant aspects of the paper. Main text will start with a line spacing above. All figures and tables are positioned within text.

1 行分あける .

1 緒 言

これは、日本材料学会講演会用原稿タイプ A のフォーマットを示したものです。本フォーマットに従い A4 の白紙をご用意の上、所定のページ数以内に日本語で作成して下さい。講演論文集は A4 で作成されます。なお、マイクロソフトワードで原稿を作成される場合は、日本材料学会のホームページからダウンロードしたこの原稿作成要領をそのまま原稿にお使いになれば、マージンなどの設定は不要です。以下では、フォーマットの詳細を示します。

2 原稿の執筆上の注意

2.1 原稿用紙 原稿は A4 白紙 (297mm×210mm) ををご用意の上、各講演会所定のページ数以内に作成して下さい。制限ページ数を超える場合は受け付けられません。

なお、原稿用紙の右上に鉛筆で小さく (吉田 1/4、吉田 2/4・・) のように第一著者名とページをご記入下さい。

2.2 マージン 原稿用紙に、左右 20mm、上部 25mm、下部 22mm のマージンを確保し、この枠内に原稿を作成して下さい。この枠外の場合は印刷されませんのでご注意下さい。また、本文は 2 段組とし、コラム幅 80mm、コラム間隔を 10mm として下さい。

2.3 題名、著者名 次の事項を本例に従って記載して下さい。(1)和文題名(15 点)、(2)和文著者名(11 点)、(3)英文題名(13 点)、(4)英文著者名 (11 点)、(5)英文要旨(9 点)、題名は中央揃えとしますが、題名の頭には講演番号を事務局でつけますので、左欄の端より 30mm 以上空けて下さい。また、著者名は、勤務先、氏名の順に、左欄の端より 40mm 以上空けて記載して下さい。連名の場合は講演者(登壇者)に ○印をつけて下さい。

2.3 本文 本文は 9pt で執筆下さい。1 コラムの文字数は全角で 25 文字程度、行間隔は 14pt 程度として下さい。したがって、1 コラムあたり 51 行、1 ページあたり約 2500 字です。参考文献は 1)、2)、3) のように番号をつけて本文の最後にまとめて下さい。参考文献の書き方は、日本材料学会誌「材料」の原稿執筆上の規約に準じます。

2.4 図表 図表を本文で引用する場合は、図(写真を含む)については、図 1、図 2 のように、また表は表 1、表

2 のように引用して下さい。なお、図表中の説明、キャプションは原則として英語とします。見本のように用紙にそのまま貼り込める大きさに用意し、本文中の説明と離れない位置に貼り付ける。図・表どうし、あるいは図、表と本文は 1 行以上間隔をあけるようにして下さい。

3. 原稿の送付

原稿は、必ず締切日までに日本材料学会・各講演会係宛にご郵送下さい (消印有効)。

締切日に遅れて到着した原稿は、論文集に掲載されません。

〒606-8301 京都市左京区吉田泉殿町 1-101

日本材料学会「FRPシンポジウム」係

参考文献

- 1) 吉田太郎,北山左京,材料,48,555(1999) .
- 2) H.Harada and T.Yoshida , Proc. M. Soc. , A-123 , 321(1989) .

(1 行分あける .)

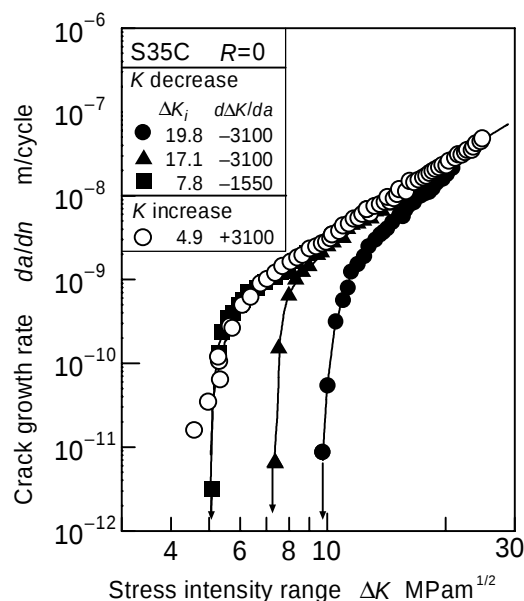


Fig.1 Relationship between da/dn and ΔK .